

第22章 東台遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみ野駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24~26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖を成し、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅶ層~Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。

縄文時代の調査では、早期1軒、後期6軒、中期

144軒、不明20軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2008年2月現在)。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や木炭窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代~近世の本村遺跡と大井氏館跡遺跡が位置する。今後、旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡、大井氏館跡遺跡との関係が注目される。



第71図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第45表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981.		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	大井東台640-7	1981.12.14～1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居12、旧石器時代石器	東部遺跡群Ⅲ
3	大井東台672	1982.5.19～6.15	666	宅地造成	炉穴7、土坑2、柱穴群	東部遺跡群Ⅳ
4	大井東台671	1982.6.17～11.18	587	農地転用	縄文中期住居3、後期住居1、 旧石器ユニット、集石4、土坑14、溝	東部遺跡群Ⅳ
5	大井東台	1983.7.25～8.9	195	町史編纂事業	縄文中期住居2、土坑1	東台遺跡
6	大井東台	1984.1.9～1.12		宅地造成	縄文中期住居1	
7	大井東台670-2	1984.5.15～6.13		共同住宅	縄文中期住居4、後期住居1	
8	大井東台672	1984.8.18～9.21	345	町史編纂事業	縄文中期住居1、炉穴2、土坑14	東台遺跡Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25～1985.2.15	1,000	駐車場造成	縄文中期住居22、後期住居1、炉穴、 ピット群、旧石器礫群	大井町史資料Ⅰ
10	大井東台670-1	1985.10.1～11.25	896	住宅建設	縄文中期住居5、土坑5	東部遺跡群Ⅵ
11	大井東台673	1986.1.14～3.20	660	宅地造成	縄文中期住居2、集石土坑3、土坑1、ピット	東部遺跡群Ⅵ
12	大井東台673	1987.5.6～6.26	330	転地返し	縄文早期住居1、土坑18、平安時代住居2、溝1	東部遺跡群Ⅶ
13	大井東台670-6	1988.1.14～2.27	971	倉庫建設	縄文中期住居9、集石1、土坑9、ピット20	東部遺跡群Ⅷ
14	大井東台649-16 他	1988.1.27～2.24	735	住宅建設	縄文中期住居12、屋外埋壘1、 集石土坑1、土坑8、ピット38	東部遺跡群Ⅸ
15	大井市沢577-1 他	(1989.10.17～11.10) 1989.11.17～1990.8.1	700	住宅建設	落とし穴1、木炭窯1、粘土探掘坑2、 奈良・平安土器	東部遺跡群Ⅹ
16	大井713-4・5	(1990.8.1～8.4)	3,048	資材置場設置	縄文中期住居1、土坑1	東部遺跡群ⅩⅠ
17	大井621-1	(1990.9.5～9.12) 1990.10.9～12.27	1,470	診療所建設	縄文中期住居8、土坑30、ピット94、柵列	東部遺跡群ⅩⅠ
18	大井529-1,588	(1991.3.11～5.20) 1992.2.24～1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器礫群、石器集中17、落とし穴1、 竪形製鉄炉7、木炭窯9、探掘坑4、土坑9、 溝、柵列、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	大井621	(1992.5.31～6.7)	4,489	特養新設	縄文中期住居8	町内遺跡群Ⅰ
20	大井649-27	1992.1.30	5	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅲ
21	大井713-11・12	1992.3.7～3.11	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅲ
22	大井651-6	(1994.5.10～5.11) 1994.5.30～7.30	146	店舗建設	縄文中期住居6、土坑1	調査会報告13集
23	大井649-12・13	(1995.6.23～6.27)	285	個人住宅	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅳ
24	大井634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内遺跡群Ⅳ
25	大井648-13・14	1995.10.22～12.16	296	個人住宅	縄文中期住居5、後期住居1、袋状土坑1、 土坑10、ピット6	町内遺跡群Ⅳ
26	大井東台601-1・4・5	(1996.11.6～11.18) 1997.1.14～3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居1、土坑3、落とし穴1、ピット24	調査会報告13集
27	大井600-1	(1997.2.19) 1997.2.19～3.14	965	個人住宅	縄文中期住居1、炉穴1、土坑1、 落とし穴1、ピット44	町内遺跡群Ⅵ
28	大井東台710-4	(1997.3.17～3.19)	231	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
29	大井東台606-3	(1998.2.27～3.3) 1998.3.4～3.5	500	個人住宅	縄文早期炉穴9、ピット2	町内遺跡群Ⅶ
30	大井640-1	(1998.11.4～11.12)	1,330	駐車場	縄文中期住居1、屋外炉、ピット	町内遺跡群Ⅶ
31	大井630-3,640-8	(1999.5.7～5.21)	186	道路築造	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅸ
32	大井603-1	(2000.8.4～8.9)	92	製茶工場	ピット3	町内遺跡群Ⅹ
33	大井662-1	(2000.8.4～8.8) 2000.8.10～2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群4、礫群4、 縄文中期住居30、後期住居4、 掘立柱建物跡1、炉穴14、集石土坑4、他	町内遺跡群Ⅹ
34	大井東台624-2	(2002.3.12～3.25) 2002.3.26～5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居5、土坑11、ピット16	町内遺跡群ⅩⅠ
35	大井東台649-31	(2001.9.6～9.8)	48	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群ⅩⅠ
36	大井東台614	(2001.10.15～11.2)	272	倉庫建設	ピット5、土器片	町内遺跡群ⅩⅠ
37	大井東台626-12	2001.10.12～11.5	100	個人住宅	縄文中期住居2、ピット1	町内遺跡群ⅩⅠ
38	大井東台614-3	(2002.1.28～2.15)	787	駐車場	縄文中期住居1、堅穴状遺構1、 集石土坑2、土坑2、ピット2	町内遺跡群ⅩⅠ
39	大井626-8	(2002.6.3～6.20)	100	個人住宅	ピット3、縄文土器片、石屑	町内遺跡群ⅩⅡ
40	大井661	(2003.10.6～11.4)	1,875	幼稚園	土坑6、ピット10、柵列	町内遺跡群ⅩⅡ
41	大井東台648-4	(2004.5.11～5.14)	182	個人住宅	縄文中期住居3、集石1、土坑1、屋外ピット1	町内遺跡群ⅩⅡ
42	大井640-4	(2004.9.7～9.17)	515	教会建築	縄文中期住居2、落とし穴1、土坑3、ピット20	町内遺跡群ⅩⅡ
43	大井東台661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ピット4	町内遺跡群ⅩⅡ
44	大井東台664-15	2005.12.8～12.28	200	個人住宅	縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット9	市内遺跡群2
45	大井東台710-1,711-1, 717-1.2	(2006.5.31～9.1) 2006.9.8～2007.3.7	7,971	小学校建設	縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット10	市内遺跡群3
46	大井東台626-11	(2006.9.4～6) 2006.9.15～28	100	個人住宅	縄文中期住居2、集石2、土坑1、	市内遺跡群3
47	大井東台602-4,602-5	(2006.9.19～20)	320	個人住宅	遺構遺物なし	市内遺跡群3
48	大井東台649-21	(2007.1.16～26)	60	個人住宅	縄文中期住居3	市内遺跡群3
49	大井東台646,647-1,665	(2008.1.28～30,2.4～19) 2008.1.31～2.1	174	通学路築造	縄文時代中期～後期住居跡1軒検出・5軒を確認。 屋外埋壘1、粘土探掘坑1、土坑1、ピット1、溝6	市内遺跡群4
50	大井東台716-1の一部	2008.7.14～22	646	東台小学校プール	遺構遺物なし	市内遺跡群5
51	大井東台648-2	(2009.3.10～18) 3.18～5.7	296	個人住宅	縄文時代中期住居跡6軒・土坑4・ピット14、 縄文土器・石器	市内遺跡群5

第46表 東台遺跡住居跡一覧表

(単位cm)

住居 番号	調査 率	平面形 ()は推定	規模	炉		煙 竈	拡張 溝	壁 溝	備考	時期	文献
				地床埋設	石囲						
1	80%	(円形)	(550×?)	○	○		有	○	曾利系多い	E I 新	東Ⅲ
2	完掘	(円形)	(400)	○					床まで削平	E I 古	東Ⅲ
3	80%	隅丸方形	(?×510)	○	○				○ 大木系有り	E I 新古相	東Ⅲ
4	完掘	隅丸方形	700×750	②				○	拡張	E II	東Ⅲ
5	完掘	円形	460×470	○				○	床まで削平	E II	東Ⅲ
6	完掘	円形	420×430						床削平	E II	東Ⅲ
7	完掘	円形	510×525×25	②				○	曾利・連弧多い	E II 古	東Ⅲ
8	完掘	隅丸方形	530×(465)25	○			有	○	7号に切られる	E I 新	東Ⅲ
9	50%	円形	約500	○					床削られる	E II	東Ⅲ
10	完掘	円形	410×400						攪乱	E I 新	東Ⅲ
11	完掘	円形	410×420	○						E II	東Ⅲ
12	20%	円形								E II	東Ⅲ
13	完掘	円形	300×270	○						E III	資
14	完掘	円形張出	430×418	○						E I 新	資
15	完掘	円形	514×520		○				連弧文多い	E II 古	資
16	完掘	長円形	525×424						15号を切り、17号に切られる	E II	資
17	完掘	長円形・円形	478×422		○		有		曾利系多い	E I 新	資
18	90%	円形	523	②			有		19号を切る	E I 新	資
19	完掘	隅丸台	517	○	○		有		曾利系多い	E I 古	資
20	完掘	長円形	658×583	○	○				21号を切る	E I 中	資
21	完掘	隅丸台形	482×462		○					E I 新	資
22	55%	円形?	切×292	○	○		有	○	23号を切る	E II	資
23	80%	長円形	622×約470	○			有	○	曾利系多い	勝Ⅲ末	資
24		長円形	東は区域外		○					E II 新	資
25	完掘	長円形?	西南攪乱		○	○			24号に切られる	E II	資
26										勝	資
27		長円形	部分発掘							時期不明	資
28	完掘	長円形	473×450	○	○					E II 新	資
29	完掘	?	切×563	○	②		有		28号に切られる	E I 新	資
30	完掘	長円形?	切×532	○				○	31号に切られる	E II	資
31	完掘	長円形	618×472	○	○				○ 曾利系多い	勝Ⅲ新	資
32	完掘	長円形	573×525	○					34号と複合	E II	資
33	完掘	柄鏡形	?×520	○		③		○	32号に切られる	称古	資
34	完掘	隅丸方形	720×628		○			○	32号と複合	E I	資
35	90%	長円形	510×540	○	○	○				E II 古	資
36	35%	円形	西半部不明	○	○	○			柄鏡形?	E IV	資
37	完掘	長円形	530×420×15	○	○	○	有		入口部に段	勝Ⅱ古	東Ⅲ
38	40%	隅丸方形	南半部未掘			○			○ 39号を切る	E I 新	東Ⅲ
39	15%	隅丸方形	大部分未掘		不明					E II	東Ⅲ
40	35%	隅丸方形	南半部未掘	○				○		E I 新	東Ⅲ
41	完掘	楕円形	480×390×20	○					44号に切られる	勝Ⅲ新	東Ⅲ
42	45%	不明	南部・東部未掘	○						E I 新	東Ⅲ
43	60%	長円形	650×600×60	②						E II	東Ⅲ
44	完掘	隅丸方形	550×(500)×20	○	○		有	○	41・47号を切る	E I 新	東Ⅲ
45	完掘	長楕円形	740×600×25	③	○		2回以上拡張		44号と接する	E II	東Ⅲ
46	完掘	楕円形	400×380×10						45号に切られる	E	東Ⅲ
47	30%	円形	300×未掘×25						44号に切られる	阿Ⅱ	東Ⅲ
48	20%	隅丸方形	南大部分未掘					○		E I 新	東Ⅲ
49	完掘	円形	560×550×30		○	○				E II	東Ⅲ I
50	完掘	長円形	420×380×30							阿Ⅱ	東Ⅲ I
51	完掘	円形	330×310×30						柱穴無し	阿Ⅱ	東Ⅲ I
52	完掘	円形	495×490×50	○	○		有			勝Ⅱ	東Ⅲ I
53	完掘	円形	340×310×30	○					8号土坑で壊れる	勝Ⅱ	東Ⅲ I
54	40%	円形	?×460×65	○	○		有	○		E I 古	東Ⅲ I
55	70%	(円形)	半掘550	○	○		有			阿Ⅱ	東Ⅲ I
56	60%	(円形)	(480)×半掘	○	○					E III	東Ⅲ I
57	完掘	円形	600×600	○		②				E II	
58	完掘	楕円形	520×420	○				○		勝Ⅲ末	
59	50	(楕円形)	560×半掘							E I 新	
60	完掘	円形	520×510		○	○	有			E I 新	
61	50	(円形)	1/2調査							E II	
62	25	(楕円形)	1/4調査		○				北大部分未発掘	E I 古	
63	45		一部調査	未掘			②	有	○	E I 古	
64	70	(楕円形)	453×(408)×22		○				65・67住と複合	E III	調13集
65	55	(楕円形)	502×不明×22	○			有	○	64住と複合、東半未発掘	E I 古	調13集
66	完掘	(楕円形)	(668×560)×48			○		△		E I 新古相	調13集
67	完掘	隅丸方形	667×590×72			○	有	○	拡張、64住と複合	E I 古	調13集
68	20	(楕円形)	(480)×不明×47	未掘					北大部分未発掘	不明	調13集
69	75	(楕円形)	(580)×不明×50			○	有	○	拡張、南部分未発掘	E II	調13集
70	90	円形	570×(510)×30	○			有	○		E II 中相	町Ⅳ
71	完掘	(楕円形)	440×410×16			○	有			勝Ⅱ新	町Ⅳ
72	15	隅丸(長)方形	(480)×?	未掘				○	西大部分未発掘	E I 新	町Ⅳ
73	完掘	楕円形	606×550×30	○		②	有		伏甕有り、75住と重なる	E II 中相	町Ⅳ
74	完掘	楕円形	612×514×40	○			有			勝Ⅲ古相	町Ⅳ
75	70	柄鏡形	(590)×?			○			73住・8号土坑と重なる	堀	町Ⅳ
76	完掘	楕円形	391×366	○		○				E II 新	調13集
77	完掘	隅丸六角形	595×480×24	○				○		E II	町Ⅳ
78	40	不明	不明	○					床まで削平	E II 新相	町Ⅳ
79	40	不明	不明	未掘						不明	町Ⅳ
80	20	不明	不明	未掘						不明	町Ⅳ
81	40	不明	不明	○						不明	町Ⅳ I
82	65	(円形)	(546)×?		○		有	○	異系統土器多し	E I 新古相	町Ⅳ I
83	30	(楕円形)	410×310×35	○					覆土内に土坑	勝Ⅱ	町Ⅳ・市3
84	30	(楕円形)	不明(南大部分未掘)	○					攪乱で炉のみ検出	不明	町Ⅳ I
85	完掘	楕円形	530×476	○						不明	調17集
86	完掘	円形	464×492						曾利多し	E II 古	調17集
87	完掘	柄鏡形	415×552	○		②				E II 新・E IV	調17集
88	完掘	不明	(465×380)	○		○			床削平	E III	調17集
89	完掘	不明	(335×315)	○					削平	阿Ⅱ古	調17集
90	30	不明	(190×60×10)	未掘						町Ⅳ	調17集

住居 番号	調査 率	平面形 ()は推定	規模	炉		埋 堦	拡張 溝	壁 溝	備考	時期	文献
				地床 埋設	石囲						
91	25	(円形)	(200×170)	○				○	床面まで削平され、92住に切られる		町ⅣⅡ
92	25	(円形)	(330×260×20)	○				○		勝末	町ⅣⅡ
93		不明	(700)	○				○	床面まで削平される		町ⅣⅡ
94	33	隅丸方形	(370×180×10)								町ⅣⅡ
95	50	(円形)	(504×423)						96・97住と複合		市2
96		円形	(560×555)						95・97住と複合		市2
97		不明	不明						95・96住と複合		市2
98	57	(隅丸方形)	(?×610)×35	○	○	△	有	○	覆土内に集石	EⅡ新	市3
99	10	(楕円形)	(?)×18			未掘		○	170住より新、100住より古	EⅡ	市3
100	25	(楕円形)	(?)×12			未掘			99・170住を埋める	EⅡ	市3
101	完掘	円形	695×600		○					EⅠ新	東Ⅳ
102	完掘	円形	480×460		○					堀Ⅰ	東Ⅳ
103	完掘	隅丸台形	700×615		②				有孔鏝付土器多い	EⅠ新	東Ⅳ
104	50	円形	500×500		○					EⅠ新古相	東Ⅳ
105	完掘	楕円形	460×430			○	○		曾利系多い	EⅠ新	史30集
106	完掘	円形	450×410			○				EⅡ古	史30集
107	完掘	楕円形	380×390		②					EⅠ新	資
108	完掘	長円形	395×325							EⅣ	資
109		楕円形									
110	完掘	円形	406×406		○				北関東系有り	EⅠ新	資
111	完掘	隅丸長方形	486×437		②		○			EⅠ新	資
112	完掘	円形	約420×408		○					EⅡ	資
113	完掘	隅丸台形	450×460		○	○	○		曾利系多い	EⅠ新	東台Ⅱ
114	完掘	長円形	510×450			○				勝末	東Ⅲ
115	完掘	長円形	545×495							勝末～EⅠ	東Ⅲ
116	完掘	長円形	575×520		○					EⅠ末	東Ⅲ
117	完掘	柄鏡形?	(640)×590		○			有	○ 入口有り	EⅣ	東Ⅲ
118	80	隅丸方形	450×410～420		○			○	有		EⅠ
119	完掘	円形	770×750			120号住居と重複				EⅡ	東Ⅲ・Ⅳ
120	完掘	柄鏡形	390×(750)		土器・石周炉 ②		有	○	磯敷、埋設3	EⅣ	東Ⅲ・Ⅳ
121	完掘	長方形	530×430					有	○ 北カマド・東カマド	平安	東Ⅲ
122	完掘	方形	400×370						○ 東カマド、墨書土器 熊賀蔵	平安	東Ⅲ
123	完掘	円形	365×350					有		茅山下	東Ⅲ
124	完掘	正円形	465×455×7		○					EⅡ	東Ⅲ
125	完掘	楕円形	420×370			○				阿Ⅱ	東Ⅲ
126	完掘	楕円形	465×420			○		○		EⅠ新	東Ⅲ
127	完掘	長楕円形	565×485×10		②			有	○	EⅠ新	東Ⅲ
128	完掘	隅丸方形	510×480		○	○	○	有	○ 129住に切られる	EⅠ新	東Ⅲ
129	完掘	隅丸方形	560×530		○			○	○ 128住を切る	EⅡ	東Ⅲ
130	70	楕円形	540×510×20		○			有	○	EⅠ新	東Ⅲ
131	完掘	不整形円形	600×580			○				EⅠ	東Ⅲ
132	完掘	隅丸方形	494×(480)		○			有	○ 複合著しい	EⅠ新	町Ⅳ
133	完掘	隅丸方形	580×520		○			有	○ 円盤、耳栓	EⅠ新中相	町Ⅳ
134	70	隅丸方形	(434×344)		○			有	○	EⅠ古	町Ⅳ
135	完掘	長円形	532×452		○					EⅡ	町Ⅳ
136	完掘	楕円形	460×396			○		有	○	EⅠ新	町Ⅳ
137	完掘	不整形	(836×820)		○			有		称古	町Ⅳ
138	完掘	不明	470×490		○			有	○ 139住と複合	勝Ⅱ新	町Ⅳ
139	完掘	柄鏡形	556×566		○	○			○ 138住と複合、土製品	EⅣ	町Ⅳ
140	完掘	隅丸方形	372×340		○			○		勝Ⅲ末	町Ⅳ
141	完掘	(楕円形)	(536×512)		○	○			○ 西部155住と複合	猪沢	町Ⅳ
142	完掘	楕円形	414×396		○	○				E最古	町Ⅳ
143	完掘	楕円形	446×340		○	○		有	○	EⅠ	町Ⅳ
144	完掘	隅丸方形	520×556		○	○	2回有	○	○ 複合か	EⅠ新古相	町Ⅳ
145	完掘	楕円形	536×448		○		2回有	○	○ 炉内(北関東東加曾)	EⅠ新古相	町Ⅳ
146	完掘	(隅丸方形)	(526×454)		○			有		EⅠ新中相	町Ⅳ
147	95	楕円形	564×560		②	○	3回有	○		EⅠ新古相	町Ⅳ
148	35	不明	436×?			未掘		有	○	EⅠ新中相	町Ⅳ
149	完掘	楕円形	388×410			○				EⅡ	町Ⅳ
150	65	(楕円形)	532×?		○			有	○ 151住と複合、連弧文・朱線多い	EⅡ新相	町Ⅳ
151	40	(隅丸方形)	(608×?)		○	○		有	○ 150住と複合	EⅠ新新相	町Ⅳ
152	完掘	(楕円形)	556×500		○	②	○	有	○ 炉内土器	E最古	町Ⅳ
153	完掘	(楕円形)	(616×544)			②		有		勝Ⅲ	町Ⅳ
154	60	(隅丸方形)	(364×544)		○			有		EⅡ古相	町Ⅳ
155	完掘	柄鏡形	670×708		○		○	有	○ 141住と複合、壺形土器・三	称古	町Ⅳ
156	完掘	楕円形	366×304			○		有		EⅠ新	町Ⅳ
157	完掘	楕円形	530×526		○		○	有	○	EⅠ新新相	町Ⅳ
158	完掘	楕円形	372×438		○	○		有		EⅠ新中相	町Ⅳ
159	完掘	(柄鏡形?)	(686×530)							称?	町Ⅳ
160	完掘	(楕円形)	(488×484)							勝Ⅱ新	町Ⅳ
161	完掘	隅丸方形	504×514		②			有	○ 床直ミニチュア土器2個	EⅠ新曾Ⅱ	町Ⅳ
162	完掘	楕円形	不明		○		○	伏	削平	EⅣ・曾Ⅲ	町Ⅳ
163	30	(隅丸方形)	(216)×288							EⅡ	町Ⅳ
164	60	(円形)	(566×416)		○					EⅡ新相	町Ⅳ
165	40	不明	(350×496)		○					堀	町Ⅳ
166	完掘	不明	(300?×250?)		○					不明	
167	70	不明	(400?×?)		○					不明	
168	完掘	不明	(300?×300?)		○					不明	
169	完掘	不明	(270?×270?)		○					不明	
170	10	不明	(?)×18							不明	市3
171	50	不明	(45)		○					不明	市4
172	トンチ	不明	(51)			未検出			173号住より新しい、未調査・保存	不明	市4
173	トンチ	不明	不明			未検出			172号住より古い、未調査・保存	不明	市4
174	トンチ	不明	(63)			未検出			173号住より新しい、未調査・保存	不明	市4
175	トンチ	不明	(69)			未検出			未調査・保存	不明	市4
176	トンチ	不明	(46)			未検出			未調査・保存	不明	市4



第72図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/2,000)

II 東台遺跡第49地点

(1) 調査の概要

調査はふじみ野市立東台小学校の通学路築造に伴うもので、ふじみ野市長より2007年5月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。通学路は遺跡中央部北側の平坦面から、砂川に降りる斜面部分に位置する。西側に隣接する33・44地点の調査では、縄文時代中期から後期初頭の住居跡等を検出している。築造工事の担当課である市教育委員会学校教育課と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年1月28日から2月19日まで、重機による通学路部分全面の表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、調査区南側平坦面で縄文時代中期から後期とみられる住居跡5軒、北側平坦面で縄文時代の住居跡1軒と集石土坑2基等を確認した。また斜面部分では縄文時代の土坑1基、時期不明の粘土採掘坑1基を確認した。

学校教育課と再協議の結果、斜面部分の土坑について通学道路(階段部分)の基礎が遺構に影響するため、発掘調査を行なった。その他の遺構については、歩行者専用通学路で築造工事において30cm以上の保護層が保てるため、工事立会いの措置をとった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、試掘調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

住居跡6軒、屋外埋甕、集石土坑2基、土坑・ピットの時期は縄文時代、粘土採掘工は古代以降の可能性が高い。屋外埋甕、土坑、ピット1、粘土採掘坑1基、溝1～6本の詳細については第47表一覧表のとおりである。

①171号住居跡

調査区の平坦部から斜面にかかる部分に位置する。斜面の地山ローム面で遺構を確認したが、覆土層と床面は確認出来なかった。平面形と規模は不明であるが、地床炉と掘り込みのしっかりしたピット2基を検出した。確認面の推定径は約4.5mである。

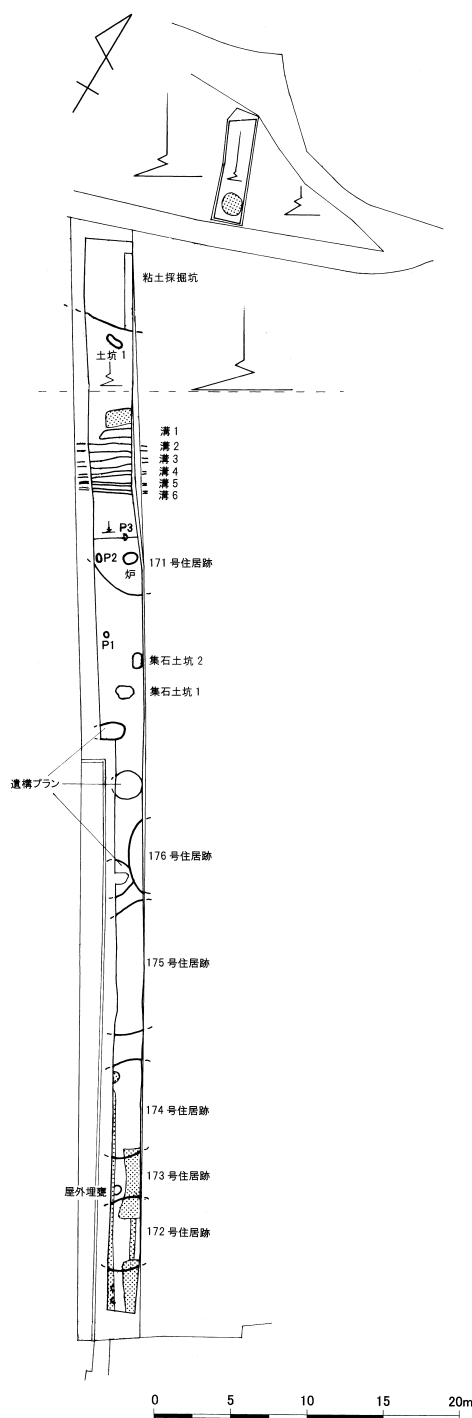
【炉】平面形は楕円形で規模は確認面径(100)×65cm、深さ11.9cmである。

【ピット】ピットは2基(P2・3)を検出した。P2の平面形は円形で確認面径32×30cm、底径18cm深さ32.9cmである。P3の西側半分は攪乱を受ける。確認面径30cm、底径15cm深さ35.7cmである。

②172～176号住居跡

172～176号住居跡は住居覆土の範囲のみを確認した。一部攪乱部分を掘り下げて深さの確認を行なったが、平面形態や規模、時期などは不明である。遺物は住居跡覆土上層出土のものである。

【172号住居跡】調査区の南側に位置する。173号住居跡と重複し本住居跡が新しいとみられる。住居確認面径5.1×1.9mの黒褐色土範囲に遺物が多数出土する。



第73図 東台遺跡第49地点遺構配置図 (1/500)

【173号住居跡】172号住居跡と174号住居跡の間に位置し、両住居跡の床面より本住居の床面は浅い。土層の観察からは本住居跡が古いとみられる。

【174号住居跡】173号住居跡の北側に位置し、173号住居跡と重複、本住居跡が新しいとみられる。確認面径6.3×1.8mの黒色土範囲に遺物が多数出土する。

【175号住居跡】174号住居跡と176号住居跡の間に位置する。確認面径6.9×1.7mの黒色土範囲に遺物がやや多めに出土する。

【176号住居跡】調査区の中央部、175号住居の北側に位置する。4.6×1mの弧状の黒色土範囲がみられるが出土遺物は少ない。

③屋外埋甕

調査区南側173号住居跡の覆土層中に位置し、土坑の西側は攪乱を受ける。埋甕は土坑北側寄りに口縁部を下にした逆位に埋設し僅かに南に傾く。

④集石土坑

集石土坑2基は調査区北側の平坦面に位置する。詳細は、第48表の集石土坑・観察表のとおりである。

⑤土坑・ピット

土坑は砂川に面する斜面部分に、ピット1は171号住居跡と集石土坑2の間に位置する。

⑥粘土採掘坑

砂川に下る斜面の中腹よりやや上位に位置する。幅50cmのトレンチを設定し深さと覆土の堆積状況を確認した。平面は弧状を呈し、底面は礫層上面でほぼ平坦である。堅穴を掘って粘土を採掘した後ローム層主体の覆土が堆積、覆土上層には礫や縄文時代の石器等が多数出土する。

⑦溝

溝は台地平坦面から砂川に下る縁辺部に6本が並行して位置し、根切り溝とみられる。

⑧出土遺物（第77・78図）

1～4は172号住居跡出土土器。1は水煙状把手で渦巻文をつくる曽利Ⅰ式。2は口縁部無文で胴部は沈線間に半截竹管の押圧を施す勝坂Ⅲ式。3は隆帯と沈線の区画内に撚糸文を施す。4は地文撚糸文、頸部無文帯と隆帯の懸垂文と蛇行懸垂文で区画を配す。3、

4は同一個体とみられる加曽利Ⅰ式。

5～44は174号住居跡覆土層出土土器。5は隆帯脇に2種類の狭い角押文を施す阿玉台式。6は地文撚糸文で沈線の懸垂文を施す。7、8は隆帯の区画内に縄文を施す。9は地文RL縄文に半截竹管の内側で半隆帯状沈線を描く。10は地文RL縄文に微隆帯を施す。11～13は深い沈線文と磨消し、14には地文縄文を施す。15、16は微隆帯と磨消し。17は口縁部無文、沈線間にRL縄文を施し2列の円形刺突を施す。18は口縁部無文で沈線を施す。19～23は沈線磨消しと刺突を施す。24、25は4～6本の条線を施す。26、27は沈線文を施す。34は隆帯に円形刺突、35は円形刺突と弧状沈線を施す。36は口唇部に円形刺突と円孔を施す。28～30は沈線間に縄文、又は磨消しを施す。32は円孔と縦に2つ刺突を施す。31、33、40、41は沈線と磨消しを施す。37・39は無文の口縁部が「く」の字状に内屈する。38は沈線文と隆帯に円形刺突文を施す。42、43は無文の底部、44は無文胴部片である。6、7は加曽利Ⅱ～Ⅲ式、8～16は中期末から後期初頭、17～23、32は称名寺2式、28～30は称名寺1式、24～26は称名寺式、32、34～36は堀之内1式、その他は堀之内式とみられる。

45～49は175号住居跡覆土層出土土器。45は平口縁で、隆帯の区画沿いに連続刺突文を施す阿玉台式。46は2本組み隆帯の区画内に細かな撚糸文、47は地文撚糸文で頸部無文帯を有す。48は広い頸部無文帯と2本の横位隆帯、胴部は撚糸文を施す。49は浅鉢形土器で無文の口縁部が屈曲する。

第47表 東台遺跡第49地点遺構一覧表

(単位cm)

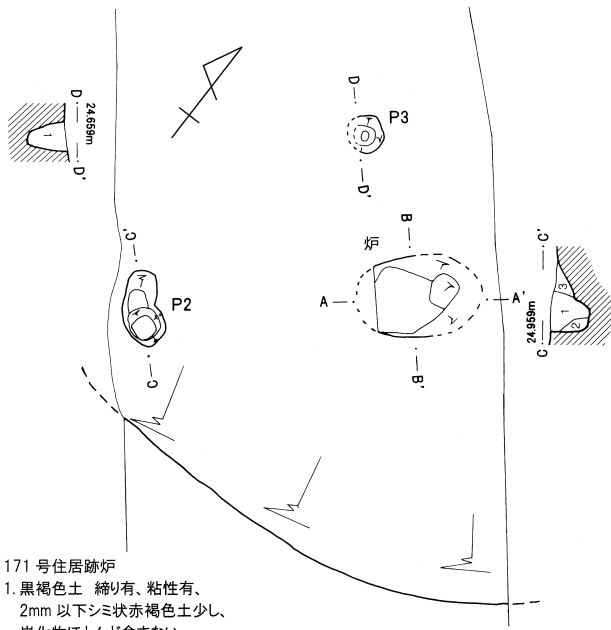
遺構名	平面(断面)形態	確認面径(上幅)	底径(下幅)	深さ
屋外埋甕	楕円形	96×(42)	64×(60)	21.0
土坑	楕円形	144×53	120×36	43.6
ピット1	楕円形	50×40	30×22	34.8
粘土採掘坑	弧状	500	500	80～230
溝1	「U」状	40～52	25	45.2
溝2	「U」状	77	25～34	68.7
溝3	「U」状	45～56	13～25	19.5
溝4	「U」状	40～52	20～23	39.8
溝5	「U」状	41～46	13～20	38.3
溝6	「U」状	50～55	25～30	123.1

第48表 東台遺跡第49地点集石土坑・出土礫観察表

(単位cm・g・%)

集石No	平面形態	確認面径	底径	深さ	礫範囲	総点数	総重量	平均重量	破損個数	完形個数	焼成個数	未焼成個数	タール・煤付着数	タール・煤未付着数
1	楕円形	112×89	41×34	29.1	90×74	286	10,943.0	38.3	265(92.7)	21(7.3)	37(13.0)	249(87.0)	3(1.0)	283(99.0)
2	楕円形	97×(68)	(78)×51	22.2	60×45	411	11,975.0	29.1	396(96.4)	15(3.6)	152(37.0)	259(63.0)	8(1.9)	403(98.1)

171 号住居跡

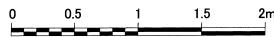


171 号住居跡炉

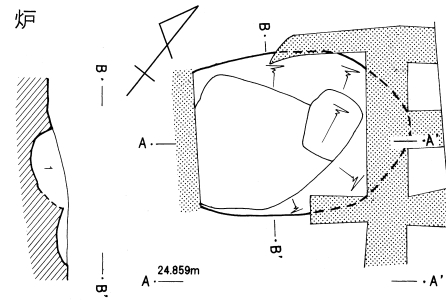
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下シミ状赤褐色土少し、炭化物ほとんど含まない

171 号住居跡ピット 2・3、ピット 1

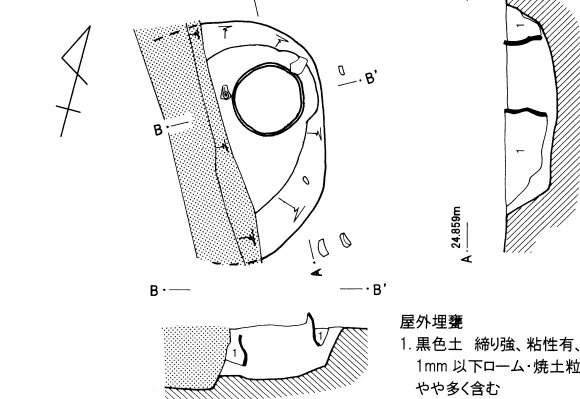
1. 灰褐色土 締り強
2. 黒褐色土 締り弱、土器片出土
3. 黄褐色土 灰褐色混、締り強



炉



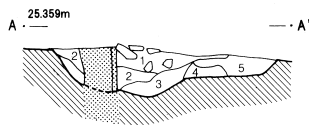
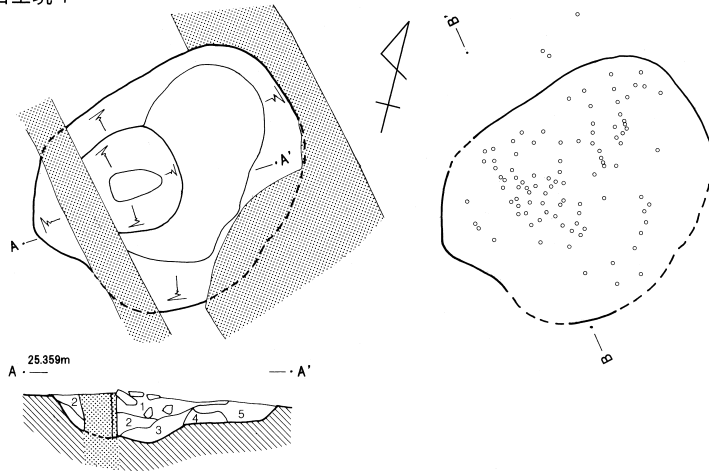
屋外埋甕



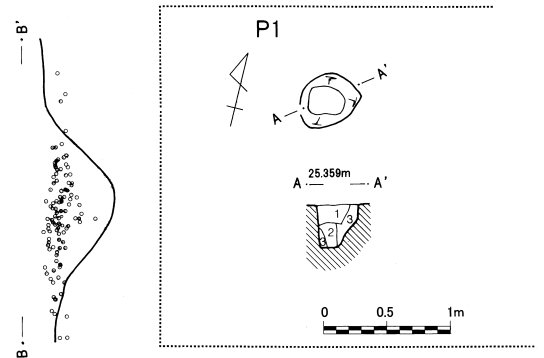
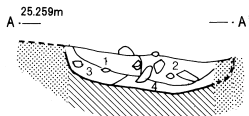
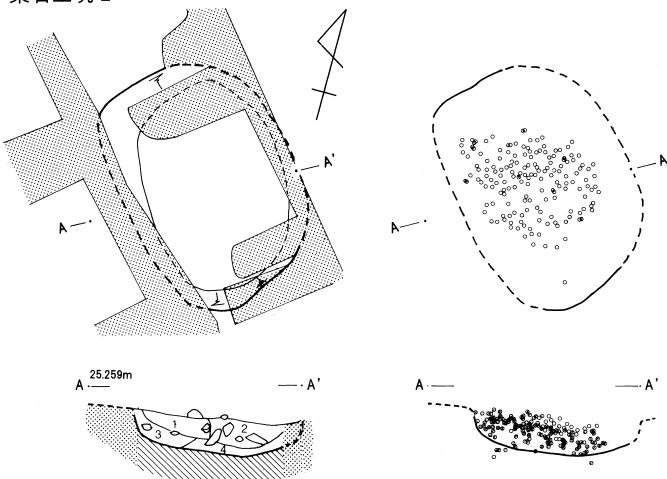
屋外埋甕

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム・焼土粒・やや多く含む

集石土坑 1



集石土坑 2



I. 黒色土 締り弱、粘性有、表土 耕作土

II. 黒色土 締り弱、粘性有、2 cm 以下ロームブロック多く含む

175・176 号住居跡の覆土層が耕作された層

III. 黒褐色土 締り弱、粘性有、縄文包含層住居は本層を掘り込む

172 号住居跡

1. 黒色土 締り強、粘性有、2mm 以下しみ状ローム・焼土多く含む

173 号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下しみ状ローム粒・焼土少し、遺物少し含む

174 号住居跡

2. 黒色土 締り強、粘性有、2mm 以下しみ状ローム粒・焼土多く含む

175 号住居跡

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm ローム粒・焼土多く、遺物多く含む

176 号住居跡

1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm ローム粒・焼土多く、遺物多く含む

集石土坑 1

1. 黒褐色土 締り 3~5 層より弱い、礫含む、炭化物少量含む

2. 暗灰色土 締り 3~5 層より弱い、炭化物少量含む、

3. 黄褐色土 締り強い、炭化物含む

4. 黄褐色土 締り強い、炭化物少量含む

5. 暗黄褐色土 締り強い、炭化物含む

集石土坑 2

1. 黒褐色土 締り弱い、炭化物多く含む

2. 暗褐色土 1 層より締り強い

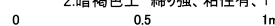
3. 灰褐色土 炭化物多く含む

4. 黄褐色土 締り強い、ローム含む

BB' (第 図)

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下しみ状ローム・焼土極少し含む

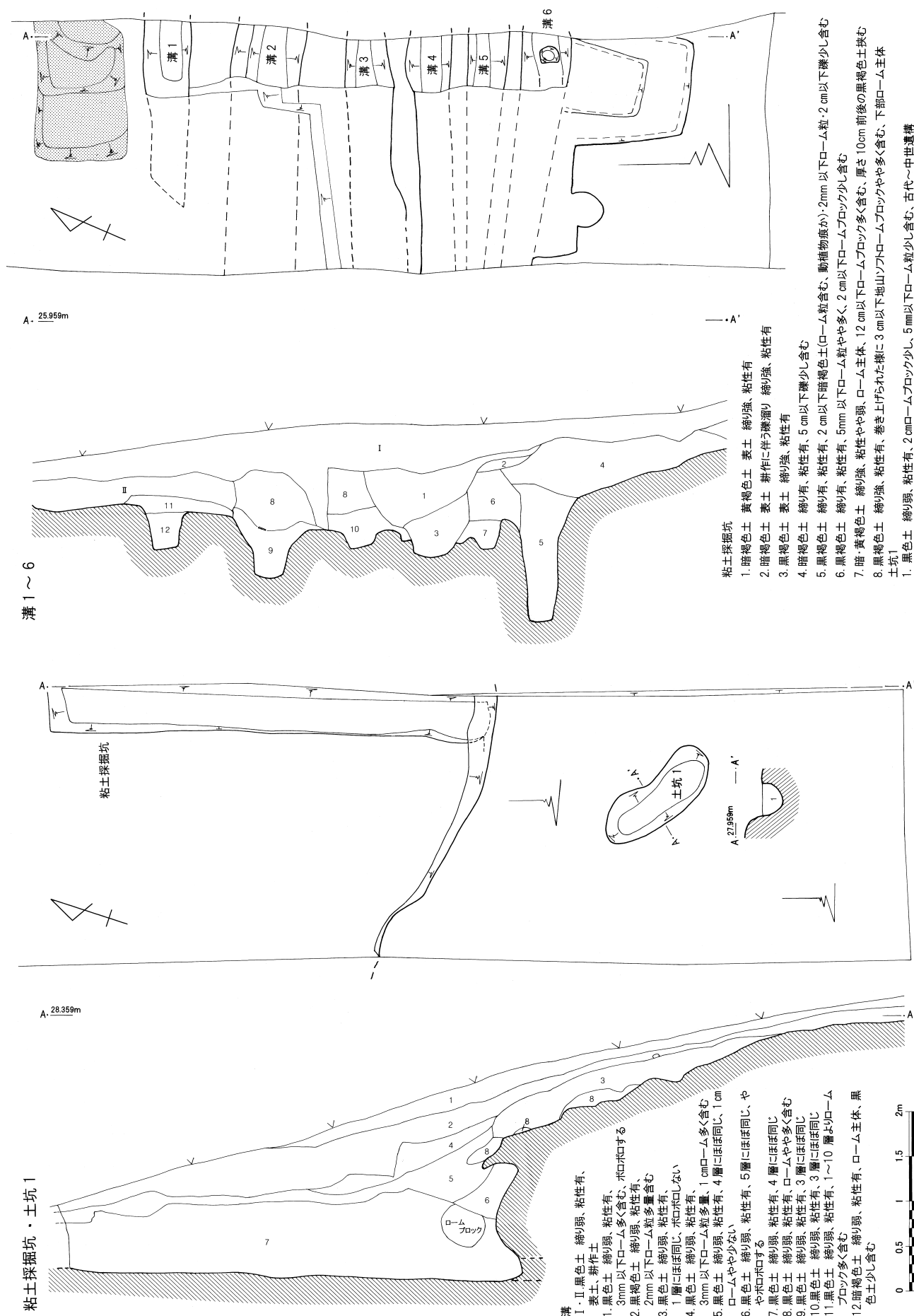
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1 層にほぼ同じ、やや色調明るい



第74図 東台遺跡171号住居跡・炉 (1/60・1/30)、第49地点屋外埋甕・集石土坑・ピット (1/30)

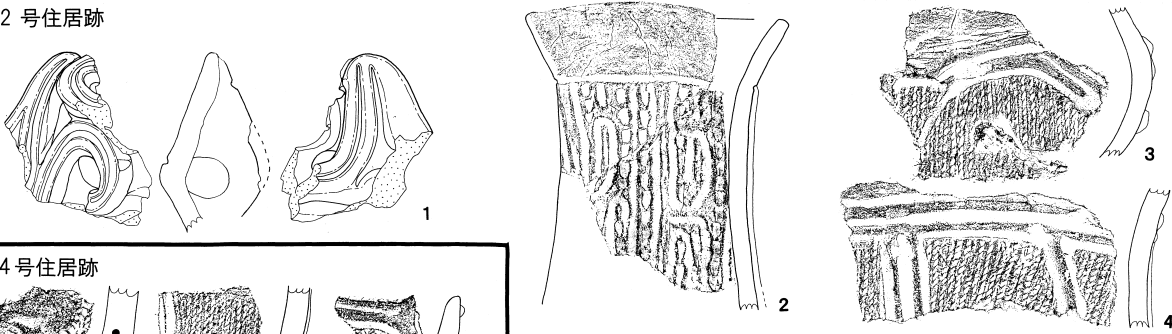


第75図 東台遺跡172～176号住居跡遺物出土状況図 (1/60)

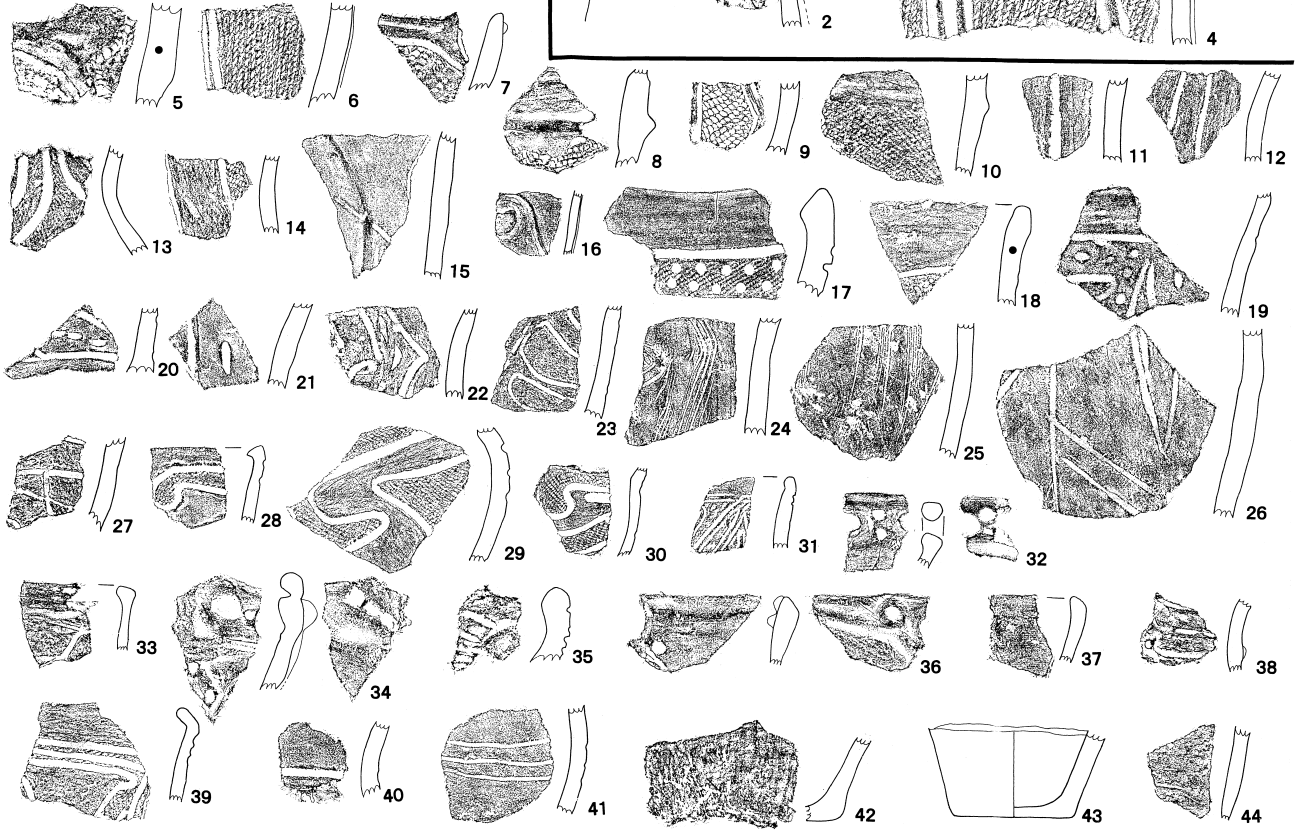


第76圖 東台遺跡第49地点粘土採掘坑・土坑・溝 (1/60)

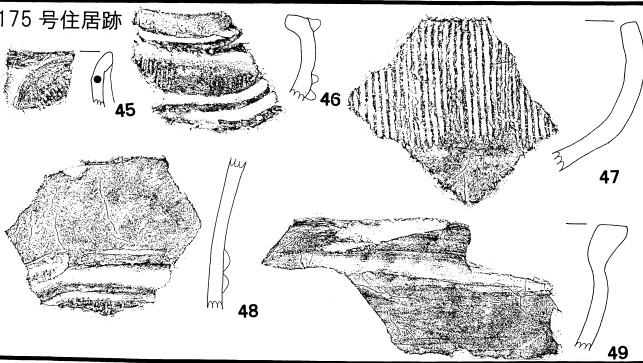
172 号住居跡



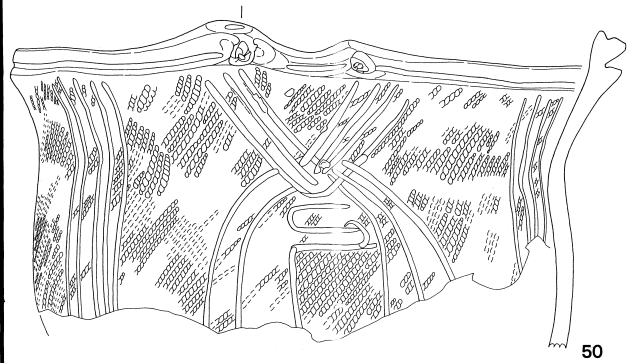
174 号住居跡



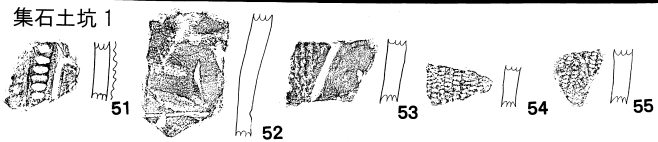
175 号住居跡



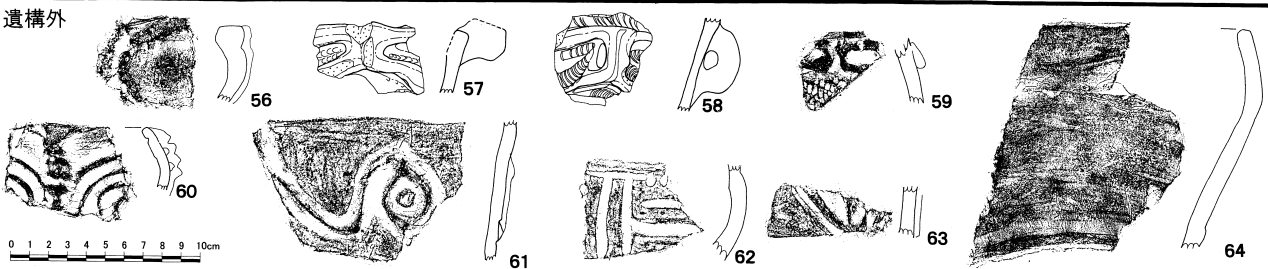
屋外埋甕



集石土坑 1

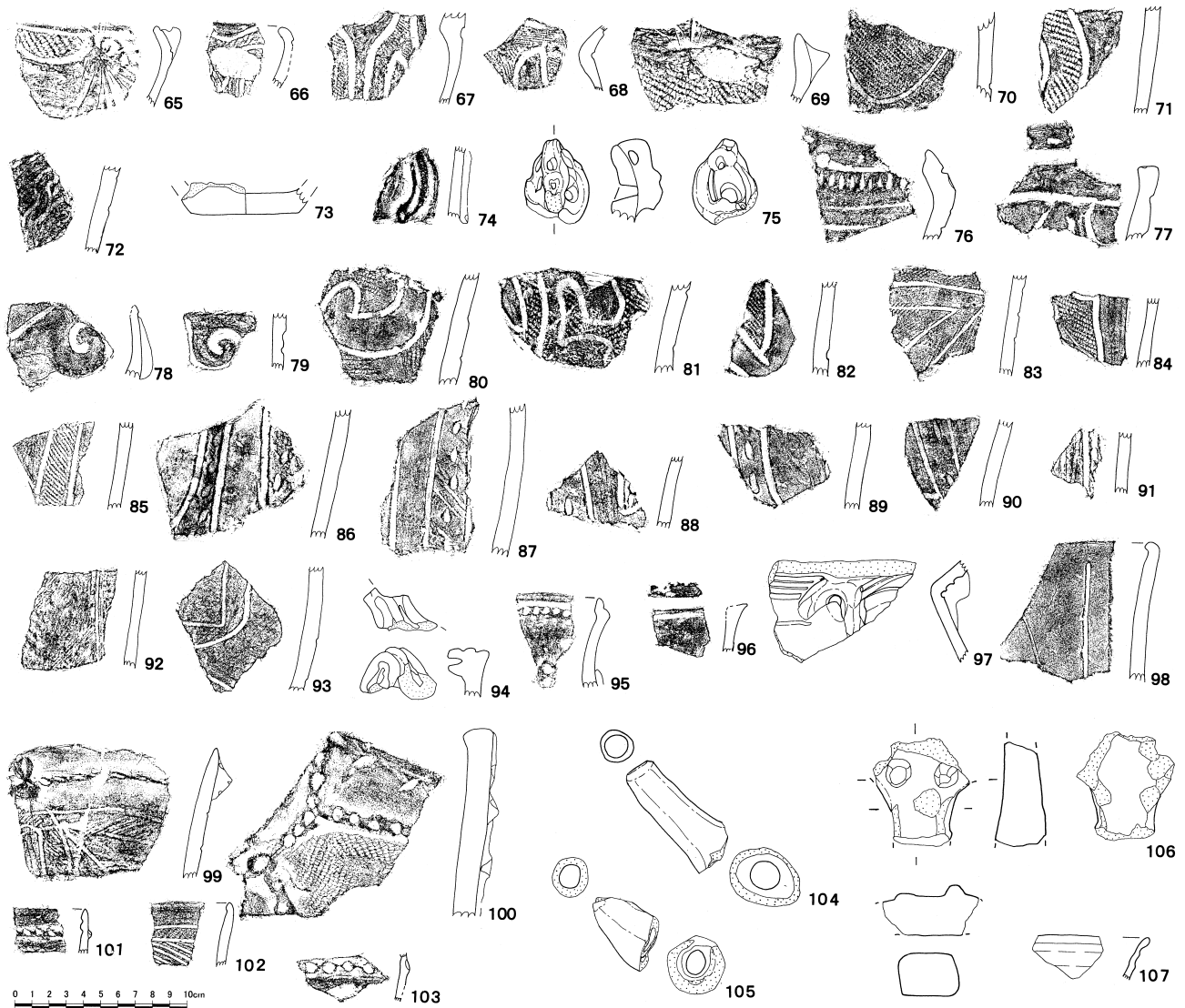


遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第77図 東台遺跡第49地点出土遺物① (1/4)



第78図 東台遺跡第49地点出土遺物② (1/4)

50は屋外埋甕の堀之内1式土器で、胴部下半から底部を欠損する。大小2対1組の波状口縁3単位には円形刺突文があり口唇部には沈線が巡る。波頂部から胴部にV字状の沈線と楕円形懸垂文、蕨手状懸垂文がのび、波頂部間には5～7本の懸垂文がのびる。地文RL縄文。

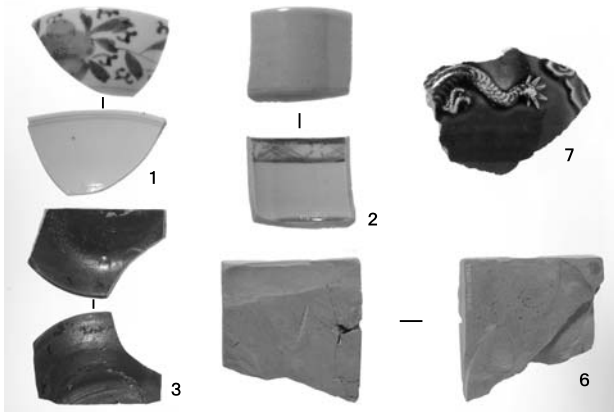
51～55は集石土坑1覆土層出土。51は押圧のある隆帯脇に沈線、51は沈線、52は地文縄文に沈線間を磨消し、53・54・55は地文縄文で勝坂Ⅲから加曽利EⅡ式。

56～107は表面採集又は包含層出土遺物である。56は隆帯で楕円形区画を配し、57・58は隆帯脇に三角押文を施す。59は地文縄文に隆帯の楕円形を貼り付ける。60は隆帯の同心円文と粘土棒に粘土帯を巻きつける。61・63は隆帯の抽象文、62は太い沈線文と刺突文、64は無文口縁と頸部に横位隆帯、65は沈線の半円形区画内に縄文、66～68・70・71は沈線間を磨消し又は縄文

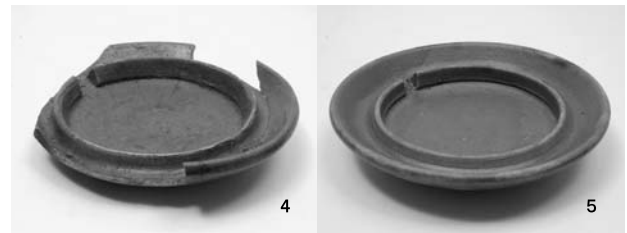
を施す。69は地文縄文に突起を有す。72は地文縄文に半截竹管文の内側で半隆帯文を施す。73は底部片。74～85は称名寺1式で口縁部突起や、胴部片で沈線と縄文、磨消し等を施す。86～93は沈線と列点文を施す称名寺2式。94～98は堀之内1式、99～103は堀之内2式、104、105は堀之内式注口土器の口部。94はバネ状の口縁部突起、95は隆帯に押圧、96・97は隆帯に刺突を施す。99～101、102・103は隆帯に刺突や8の字状貼り付けを施す。104は沈線と縄文を施す。

106は板状土偶の胸部から腹部で、頭部、腕部、脚部を欠損する。器面は撫でによる調整が丁寧にされている。東台遺跡で確認された初めての土偶で、中期から後期前半に属するものとみられる。

107は須恵器坏の口縁部片で胎土に白色針状物質を含む。



大井氏館跡遺跡第22地点土坑2・礎石2・遺構外
出土遺物No.1～3・6・7



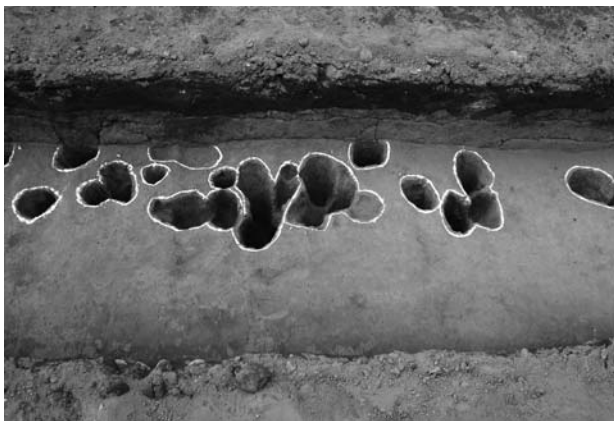
大井氏館跡遺跡第22地点土坑2出土遺物No.4・5



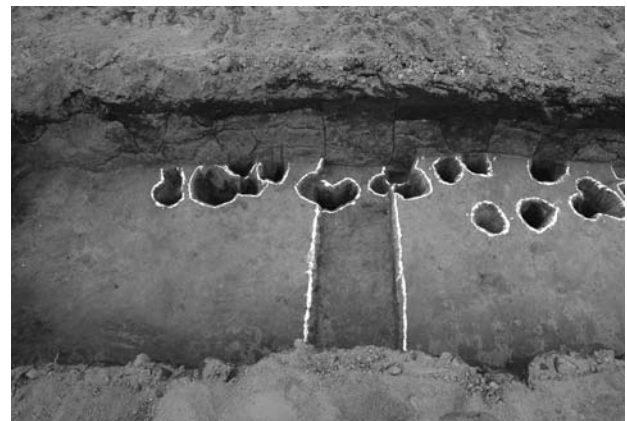
大井戸上遺跡第6地点試掘調査トレンチ



大井戸上遺跡第6地点ピット2～11・20～22



大井戸上遺跡第6地点ピット12～19・23～35



大井戸上遺跡第6地点ピット31～49



東台遺跡第49地点近景



東台遺跡第49地点近景（北側斜面調査区）



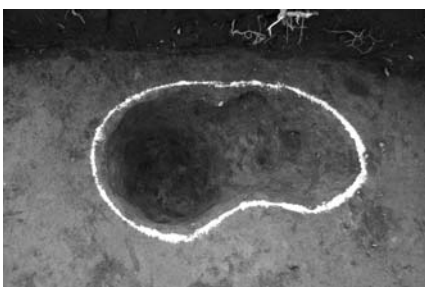
東台遺跡第49地点171号住居跡



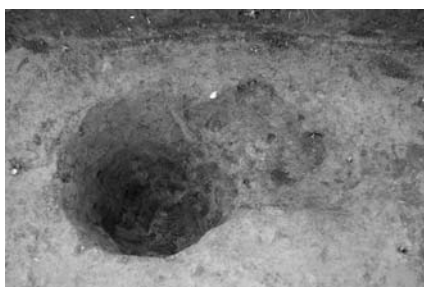
東台遺跡第49地点171号住居跡



東台遺跡第49地点171号住居跡炉



東台遺跡第49地点171号住居跡ピット1



東台遺跡第49地点171号住居跡ピット2



東台遺跡第49地点171号住居跡ピット3



東台遺跡第49地点住居跡遺構確認状況



東台遺跡第49地点住居跡



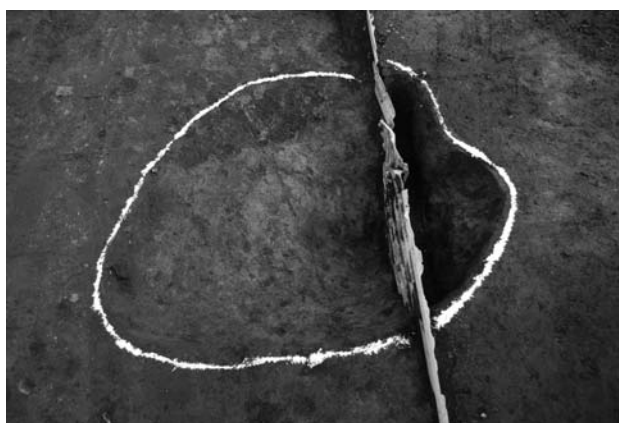
東台遺跡第49地点埋甕出土状況



東台遺跡第49地点埋甕出土状況



東台遺跡第49地点集石土坑 1



東台遺跡第49地点集石土坑 1



東台遺跡第49地点集石土坑 2



東台遺跡第49地点集石土坑 2



東台遺跡第49地点全景



東台遺跡第49地点粘土採掘坑・土坑 1 (南から)



東台遺跡第49地点粘土採掘坑・土坑 1 (北から)



東台遺跡第49地点粘土採掘坑土層



東台遺跡第49地点溝



172号住居跡

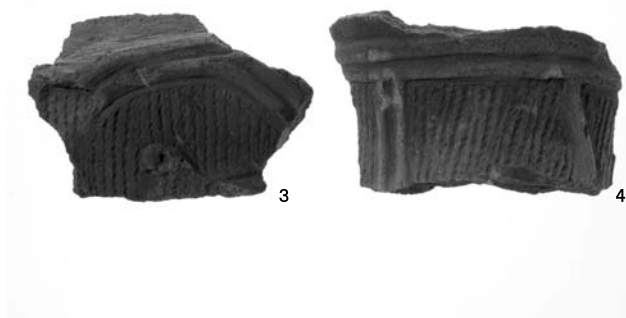
東台遺跡第49地点出土遺物No.1



172号住居跡

東台遺跡第49地点出土遺物No.2

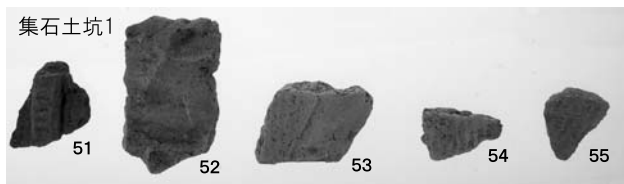
172号住居跡



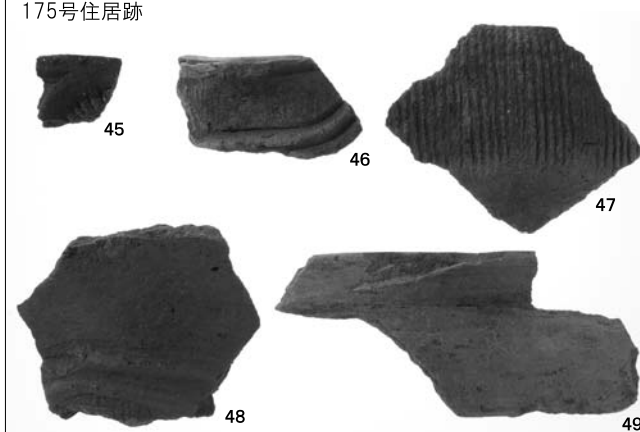
屋外埋甕



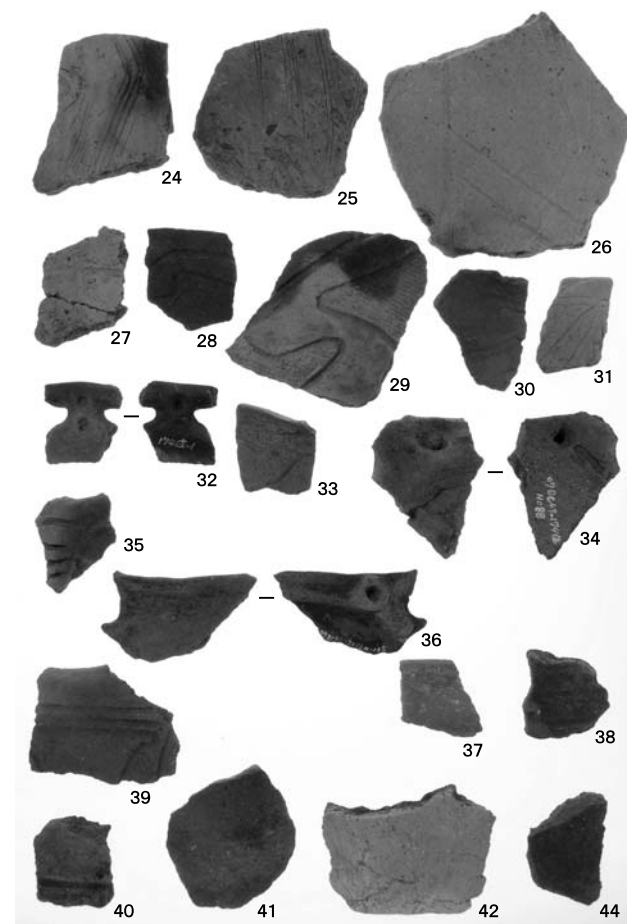
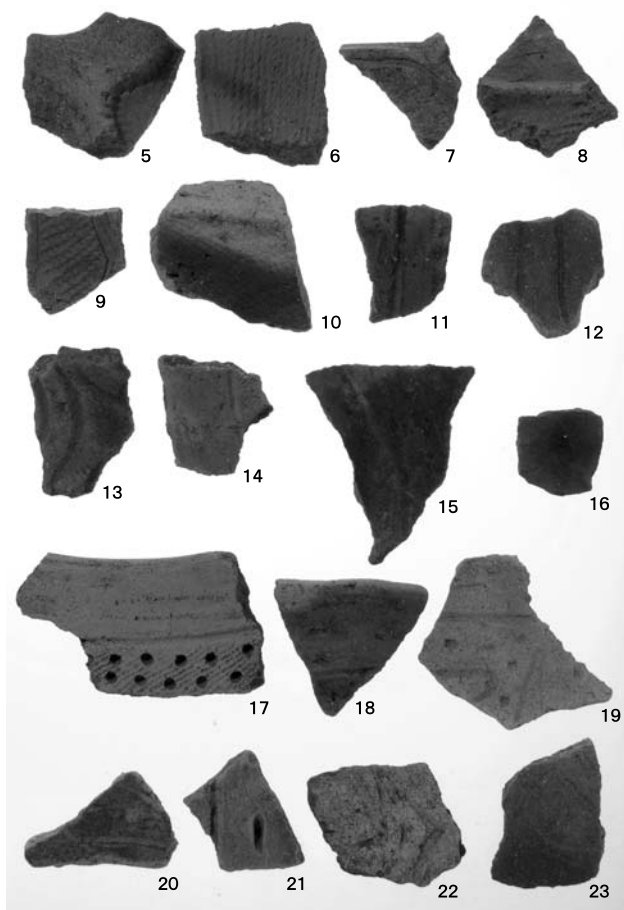
集石土坑1



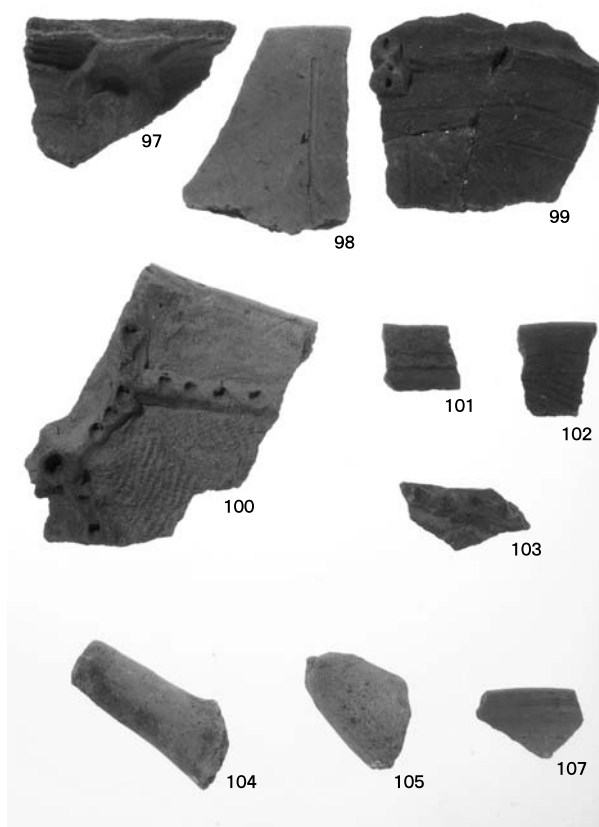
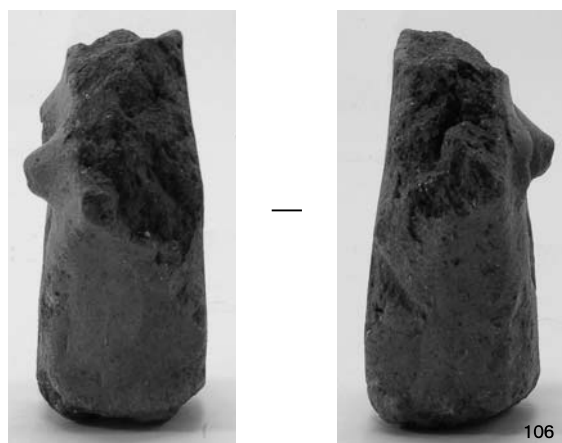
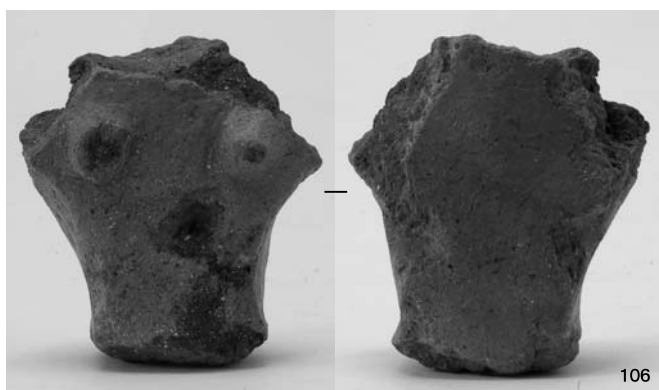
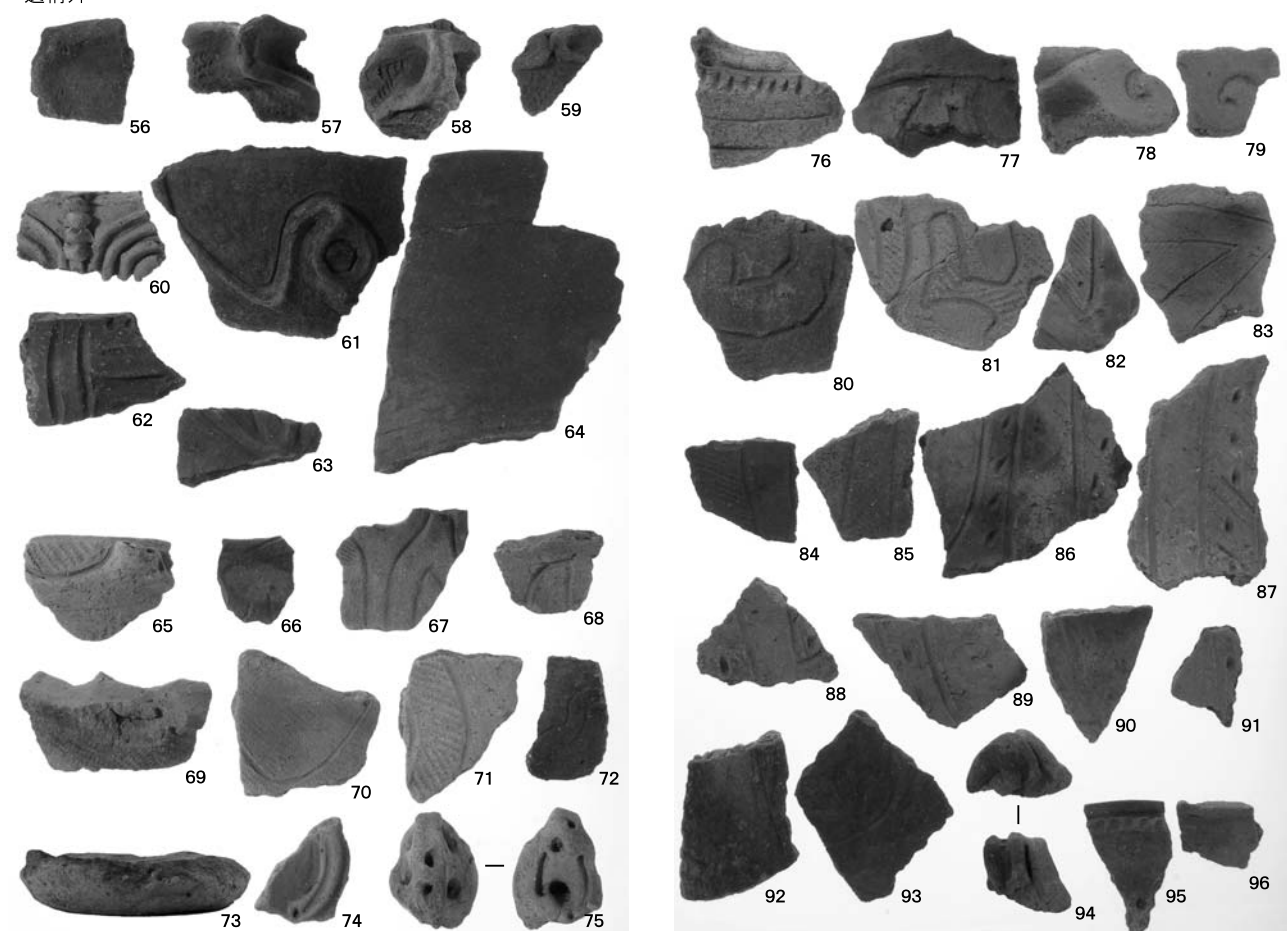
175号住居跡



174号住居跡



遺構外



東台遺跡第49地点出土遺物No.56~107



西遺跡第1 地点23号住居跡炉体土器 No.96



西遺跡第1 地点23号住居跡炉体土器 No.97



亀居遺跡第62地点土坑9 出土土器 No.3



東台遺跡第49地点屋外埋甕出土土器 No.50



東台遺跡第49地点出土土偶 No.106